

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果

調査概要

調査日時：平成28年4月19日（火）

調査事項：

- ①児童生徒に対する調査：国語，算数・数学及び質問紙調査
- ②学校に対する質問紙調査

調査対象及び集計対象児童生徒・学校数：

	小学校				中学校			
	児童数		学校数		生徒数		学校数	
	調査対象児童数※1	4月19日に調査を実施した児童数※2	調査対象学校数	4月19日に調査を実施した学校数	調査対象生徒数※1	4月19日に調査を実施した生徒数※2	調査対象学校数	4月19日に調査を実施した学校数
公立	1,066,011人	1,021,910人	19,752校	19,335校 (97.9%)	1,063,674人	996,578人	9,685校	9,464校 (97.7%)
国立	7,134人	6,911人	75校	74校 (98.7%)	10,864人	10,171人	80校	77校 (96.3%)
私立	12,743人	6,136人	222校	113校 (50.9%)	81,128人	31,380人	761校	365校 (48.0%)
合計	1,085,888人	1,034,957人	20,049校	19,522校 (97.4%)	1,155,666人	1,038,129人	10,526校	9,906校 (94.1%)

※1 調査対象児童生徒数について、公立・国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、平成27年度学校基本調査による。調査当日までの転出入等により増減の可能性がある。

※2 調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

○平成28年熊本地震による影響について

・本年4月に発生した熊本地震による影響により、熊本県並びに宮崎県及び大分県の一部の小中学校において、4月19日の調査実施を見送った。

※【熊本県】全ての小学校361校，中学校171校

【宮崎県】五ヶ瀬町，高千穂町，椎葉村，日之影町の中学校7校

【大分県】竹田市，九重町，由布市の小学校22校，中学校8校

・熊本県では、7月末までに後日実施を行ったため、9月末に結果を教育委員会及び学校に対し提供する予定。

※なお、宮崎県及び大分県では、希望により、5月6日までに後日実施を行っており、8月に結果を教育委員会及び学校に対し提供。

・いずれも「平成28年度全国学力・学習状況調査」の結果の数値には含まれない。

教科の調査結果

全国（国公私）の平均正答率・数

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
平成28年度	73.0% 11.0 /15問	58.0% 5.8 /10問	77.8% 12.4 /16問	47.4% 6.2 /13問	76.0% 25.1 /33問	67.1% 6.0 /9問	62.8% 22.6 /36問	44.8% 6.7 /15問
(参考値) 平成27年度	70.2% 9.8 /14問	65.6% 5.9 /9問	75.3% 12.1 /16問	45.2% 5.9 /13問	76.2% 25.2 /33問	66.2% 6.0 /9問	65.0% 23.4 /36問	42.4% 6.4 /15問

1. 教科に関する調査結果

- 調査問題は、学習指導要領に基づき、児童生徒が十分に身に付け、活用できるようにしておくべきと考えられるものを、各領域等からバランスよく出題
その際、「4年間のまとめ」(*)で指摘した課題や平成24年度～27年度調査で見られた課題についての改善状況を把握する観点からの問題も出題

※国立教育政策研究所において、平成19年度～22年度の4回の調査結果を分析して、成果と課題を整理した報告書

- ・ 中学校数学の一部の問題において、改善の傾向が見られた
(空間における直線と直線の位置関係の理解, 多角形の外角の和の性質の理解)
- ・ 特にB問題における適切な根拠に基づいて説明することなどに課題が見られた

小学校

<国語>

話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに課題がある。

(別紙 P.1～P.3)

スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する設問【B1二】(51.2%)
スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く設問【B1三】(50.6%)

目的や意図に応じて、グラフや表の結果を基に、自分の考えを書いたり、文章構成の効果を捉えたりすることに課題がある。

(別紙 P.4～P.6)

「早ね早起き」活動の課題について、図の結果を基に書く設問【B2二(1)】(51.5%)
「早ね早起き」活動の課題に対する解決方法について、表の結果を基に書く設問【B2二(2)】(64.4%)
「早ね早起き」活動の報告文で課題を取り上げた効果として適切なものを選択する設問【B2三】(58.5%)

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくことに課題がある。(別紙 P.7～P.8)

「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く設問【B3三】(53.2%)

目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うことについては良好である。(別紙 P.9)

全校集会で歌う歌を決めるために、どのように話し合っているのか、話し合いの説明として適切なものを選択する設問【A2】(79.3%)

<算数>

基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに依然として課題がある。(別紙 P.10)

定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く設問【A9(2)】(51.2%)

解釈が正しくないことの原因を、グラフの視覚的な変化の様子にとらわれずに、読み取ることができる情報を根拠にして説明することに課題がある。(別紙 P.11)

A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読み取った事柄について、正しくないわけを書く設問【B4(3)】(25.0%)

除法の式を、並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味を説明することに課題がある。(別紙 P.12)

示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く設問【B5(1)】(7.0%)

乗法や除法の式の意味を解釈することに課題がある。(別紙 P.13)

三つの式について、それぞれが何を計算しているかを説明している文を選択する設問【B3(1)】(62.7%)

<国語>

自分の考えを書く際に、根拠を示すことは意識されているが、根拠として取り上げる内容が適切かどうかを吟味したり、どの部分が根拠であるかが明確になるような表現上の工夫をしたりすることに、依然として課題がある。(別紙 P.14~P.16)

「ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く設問【B1三】(68.4%)
図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く設問【B3三】(58.4%)

資料を基にして自ら課題を決めてはいるが、課題の解決に向け、具体的な情報収集の方法を考えることに課題がある。

(別紙 P.17~P.18)

「宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く設問【B2三】(49.8%)

語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについては、一部に課題がある。

(別紙 P.19)

「適切な語句・敬語を選択する設問
・彼は、忙しい仕事の合間を縫って、私に会いに来てくれた 【A9三ア】(91.2%)
・厳しい挑戦だということは、もちろん分かっています 【A9三イ】(98.0%)
・弟子を手塩にかけて育てる 【A9三ウ】(60.0%)
・私がプリントを集めて、先生にお届けします 【A9三エ】(94.4%)
・会長候補として、白羽の矢が立つ【A9三オ】(54.7%)

文の成分の照応について理解することに課題がある。(別紙 P.19)

「文章を書き直した意図として適切なものを選択する設問【A9五】(51.1%)

<数学>

空間における直線と直線の位置関係を理解することについて、改善の傾向が見られる。

(別紙 P.20)

「三角柱において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く設問【A5(1)】(75.9%)

多角形の外角の和の性質を理解することについて、改善の傾向が見られる。

(別紙 P.20)

「多角形の外角の和について、正しい記述を選択する設問【A6(2)】(69.8%)

証明の必要性と意味を理解することに依然として課題がある。また、図形の性質について筋道を立てて証明することに課題がある。

(別紙 P.21~P.22)

「証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、正しい記述を選択する設問【A8】(62.3%)
二つの辺の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する設問【B4(1)】(30.0%)

資料を整理した表から最頻値を読み取ることについて課題がある。また、資料の傾向を的確に捉えて判断し、その理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

(別紙 P.23~P.24)

「読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める設問【A12(1)】(46.2%)
24.5cmの靴を最も多く買うという考えが適切ではない理由を、グラフの特徴を基に説明する設問【B5(1)】(48.1%)

2-1. 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に向けた取組状況 (新規項目)

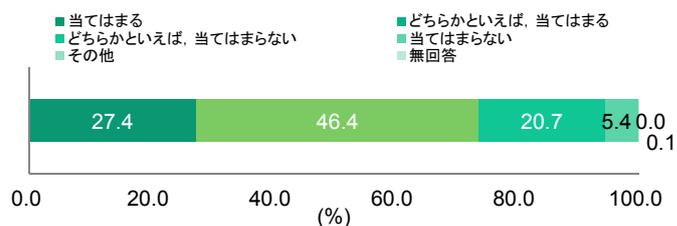
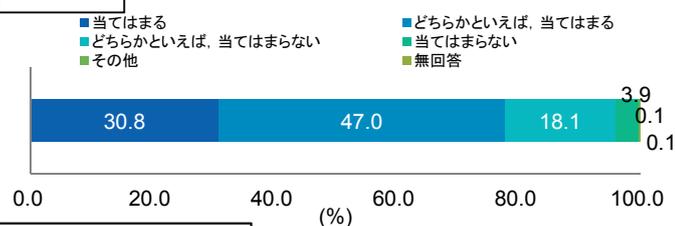
- ・授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと回答している児童生徒は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」をあわせると7割を超えており、児童生徒の学習態度として、一定の定着状況がみられる
- ・児童生徒質問紙、学校質問紙とも肯定的な回答を選択した学校や児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある
- ・学校の回答と、対になる児童生徒質問紙の回答状況を比較してみると、学校が「児童生徒は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組んでいると思う」と回答をしていますが、そう捉えていない児童生徒が一定の割合で存在する

小学校

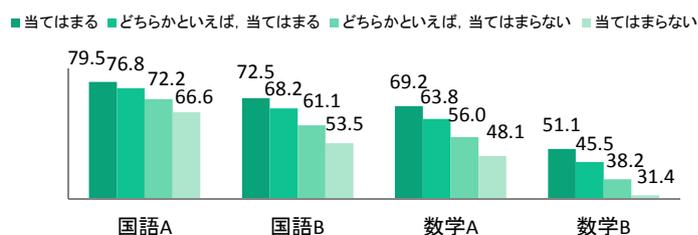
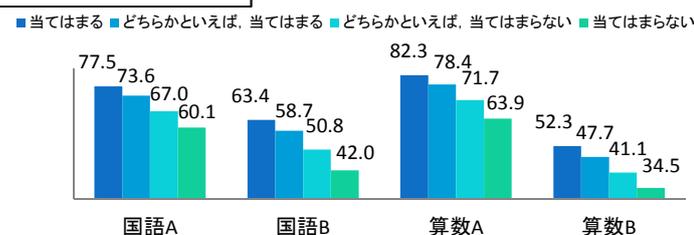
中学校

【児童生徒質問紙】5年生まで[1, 2年生のとき]に受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか (新規項目)

回答割合

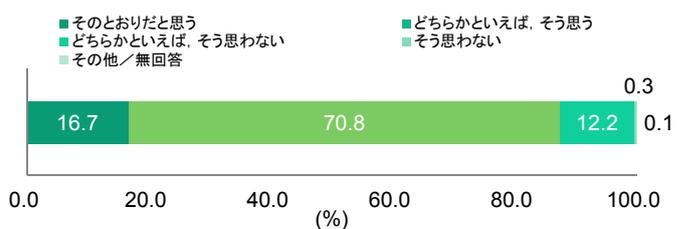
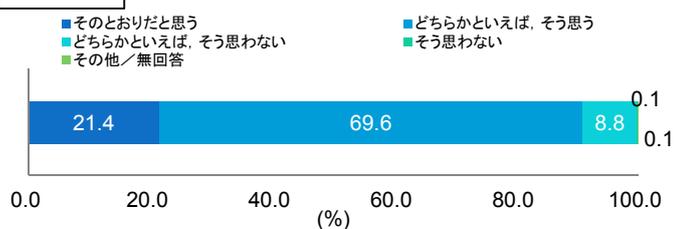


選択肢毎の平均正答率



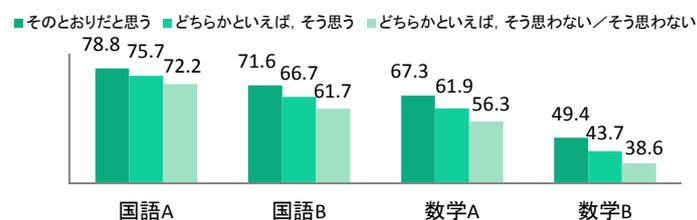
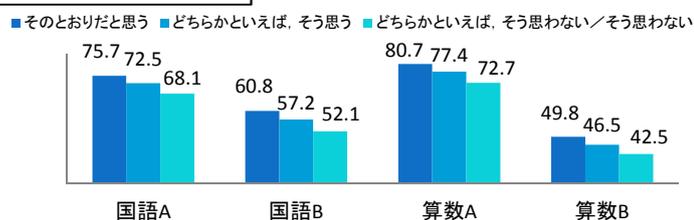
【学校質問紙】調査対象学年の児童[生徒]は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか (新規項目)

回答割合



選択肢毎の平均正答率

※「そう思わない」と回答した学校が100校未満のため、「どちらかといえば、そう思わない」と合算



学校と児童[生徒]の意識の相違

【学校質問紙】調査対象学年の児童[生徒]は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか
 【児童生徒質問紙】5年生まで[1, 2年生のとき]に受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか

		児童の回答割合			
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
学校の回答	そのとおりだと思う	34.0	46.8	15.9	3.1
	どちらかといえば、そう思う	30.4	47.2	18.3	4.0
	どちらかといえば、そう思わない/そう思わない	26.9	46.3	21.3	5.3

		生徒の回答割合			
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
学校の回答	そのとおりだと思う	30.4	46.9	18.1	4.4
	どちらかといえば、そう思う	27.3	46.5	20.8	5.3
	どちらかといえば、そう思わない/そう思わない	24.4	44.7	23.9	6.9

2-2. 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に向けた取組状況 (新規項目)

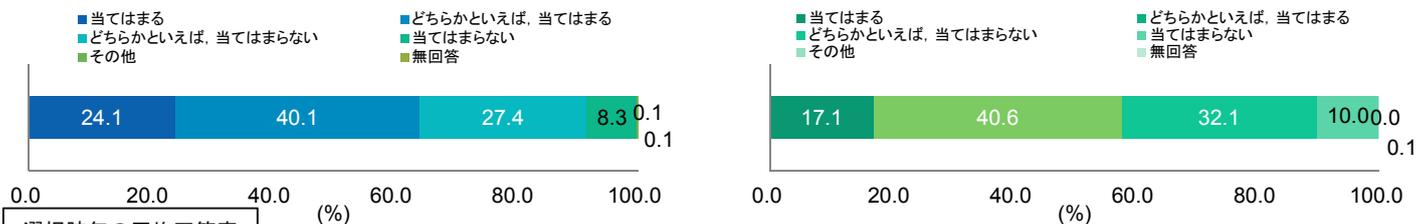
- ・授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと回答した児童生徒は6割前後に留まり、そのような取組ができていないという児童生徒が4割弱存在する
- ・児童生徒質問紙、学校質問紙とも肯定的な回答を選択した学校や児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向にある
- ・学校の回答と、対になる児童生徒質問紙の回答状況を比較してみると、学校が「児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う」と回答をしても、そう捉えていない児童生徒が一定の割合で存在する

小学校

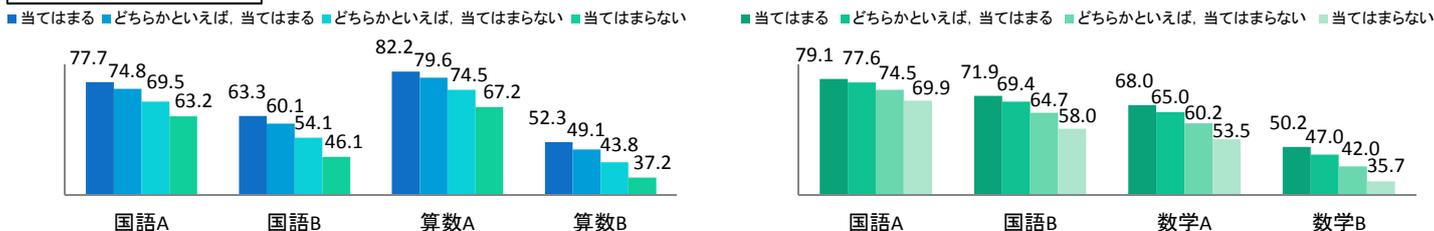
中学校

【児童生徒質問紙】5年生まで[1, 2年生のとき]に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか (新規項目)

回答割合

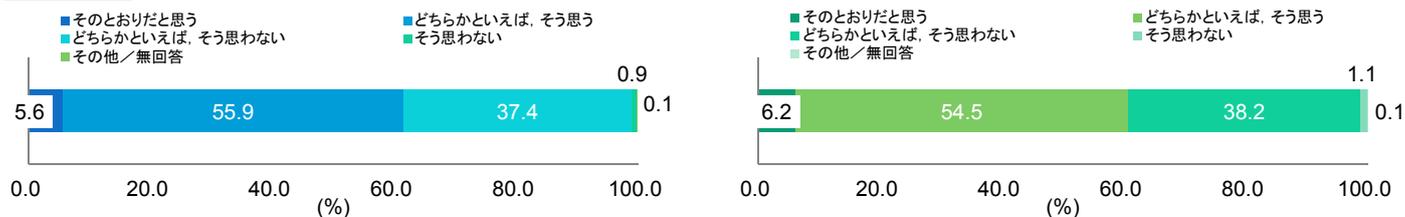


選択肢毎の平均正答率

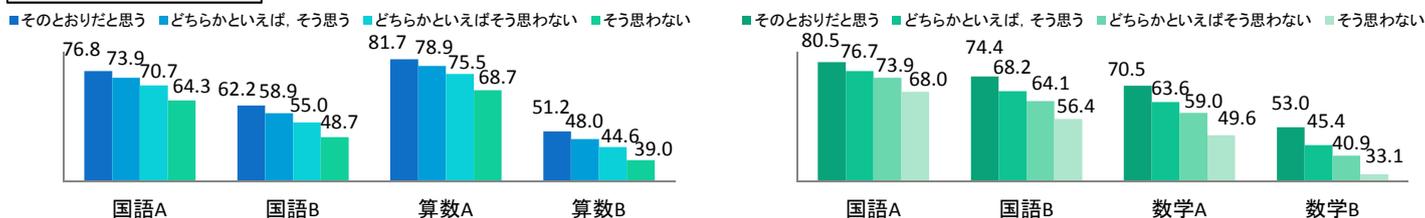


【学校質問紙】調査対象学年の児童[生徒]は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか (新規項目)

回答割合



選択肢毎の平均正答率



学校と児童[生徒]の意識の相違

【学校質問紙】調査対象学年の児童[生徒]は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか×【児童生徒質問紙】5年生まで[1, 2年生のとき]に受けた授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか

学校の回答	児童の回答割合			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
そのとおりだと思う	27.8	41.1	24.2	6.8
どちらかといえば、そう思う	24.8	40.6	26.7	7.7
どちらかといえば、そう思わない	22.5	39.3	28.8	9.2
そう思わない	20.1	37.9	30.7	11.1

学校の回答	生徒の回答割合			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
そのとおりだと思う	20.8	43.4	27.9	7.7
どちらかといえば、そう思う	17.6	41.4	31.4	9.5
どちらかといえば、そう思わない	15.8	39.2	33.7	11.1
そう思わない	14.0	37.7	34.4	13.6

2-3. 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に向けた取組状況

- ・回答状況の経年的な変化をみると、肯定的な回答が全体として増加していることから、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動は、徐々に定着しつつある状況
- ・一方、上記のような学習指導の改善の取組ができていないと回答する学校も2割弱～3割弱程度存在
- ・授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動の取組を行っている学校の方が、平均正答率が高い傾向にある
- ・また、学校がそのような取組を行っていても、「そのような活動ができていない」と考えている児童生徒が、一定の割合で存在する

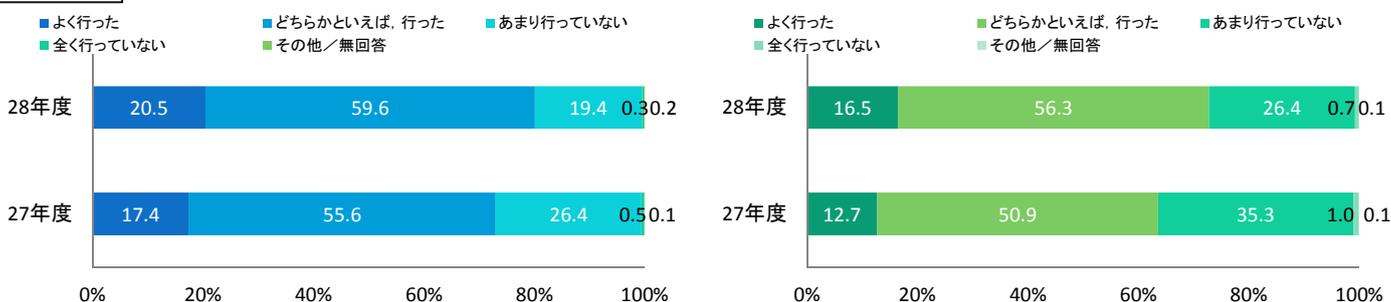
学校質問紙

小学校

中学校

【学校質問紙】前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

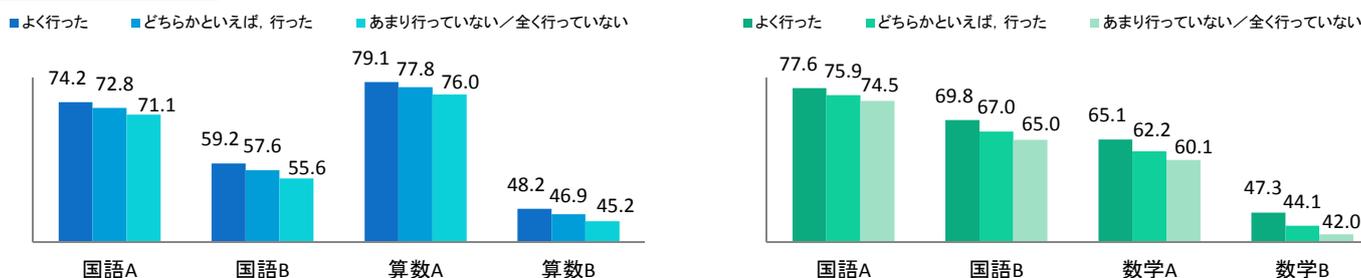
回答割合



- ・授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたと回答した学校の割合は、平成27年度から平成28年度にかけて、小学校で7.1ポイント、中学校で9.2ポイント増加

選択肢毎の平均正答率

※「全く行っていない」と回答した学校が100校未満のため、「あまり行っていない」と合算



学校と児童[生徒]の意識の相違

※「前年度までに、授業において、児童[生徒]自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」という学校質問紙の回答選択肢別に、「授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」という児童生徒質問項目に対する児童生徒の回答割合を算出

		児童の回答割合			
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
学校の回答	よく行った	32.0	46.2	17.9	3.8
	どちらかといえば、行った	29.3	46.4	19.9	4.4
	あまり行っていない/全く行っていない	27.1	46.2	21.6	5.0

		生徒の回答割合			
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
学校の回答	よく行った	26.4	47.4	21.0	5.0
	どちらかといえば、行った	22.3	47.0	24.2	6.3
	あまり行っていない/全く行っていない	19.9	45.8	26.6	7.5

3-1. 就学援助率別の主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に向けた取組状況と学力との関係【三重クロス分析】（新規）

※グラフ中の数値は、選択肢毎の平均正答率。分析対象は公立学校

- ・ 児童生徒の経済的な状況に関する学校の状況（就学援助率）を統制した上で、学校の取組と学力との関係を見るために、就学援助を受けている児童生徒の割合を統制変数とした三重クロス分析を実施
- ・ 就学援助率に関わらず、学習指導の改善に向けた取組に沿った学習を児童生徒ができていますと回答した学校の方が、平均正答率が高くなっている

小学校

就学援助を受けている児童の在籍割合5%未満 30%以上在籍

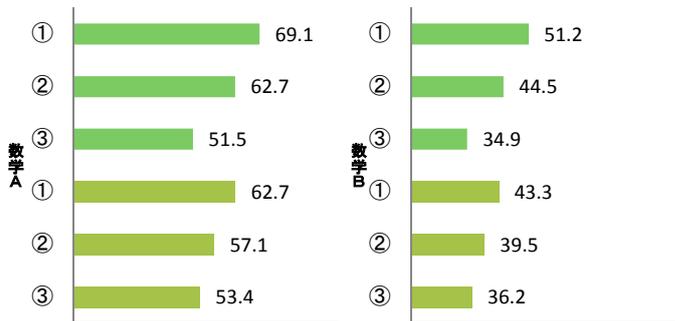
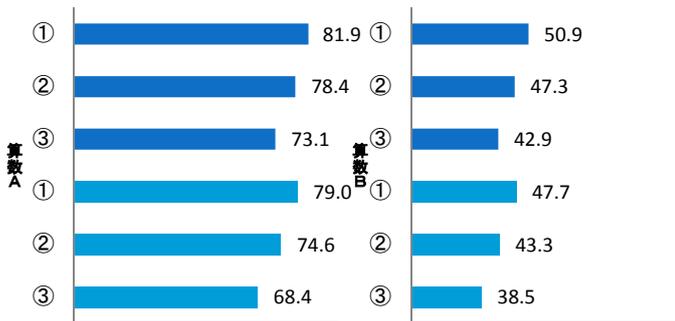
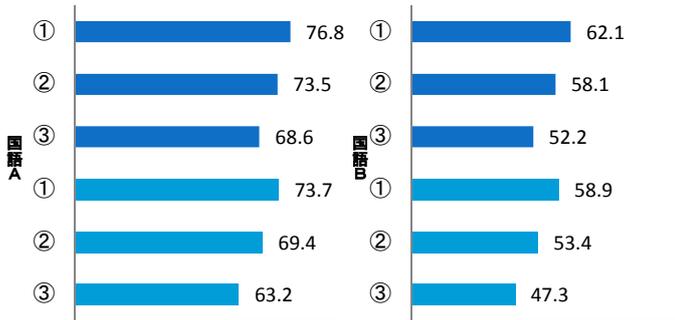
中学校

就学援助を受けている生徒の在籍割合5%未満 30%以上在籍

調査対象学年の児童[生徒]は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか

① そのとおりだと思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない

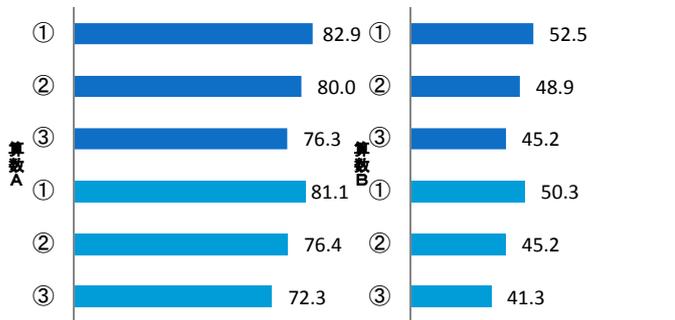
※「④ そう思わない」は、学校数が50校未満のため、分析から除外



調査対象学年の児童[生徒]は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

① そのとおりだと思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない

※「④ そう思わない」は、学校数が50校未満のため、分析から除外



3-2. 就学援助率別の学習規律と学力との関係 【三重クロス分析】（新規）

※グラフ中の数値は、選択肢毎の平均正答率。分析対象は公立学校

- ・就学援助率別に、「児童生徒は熱意をもって勉強しているか」、「授業中の私語が少なく落ち着いているか」という学習規律に関わる2項目の選択肢毎の平均正答率を算出
- ・就学援助率に関わらず、学習規律に関わる項目に肯定的な回答をしている学校の方が、平均正答率が高い傾向にあることが明らかになった

小学校

中学校

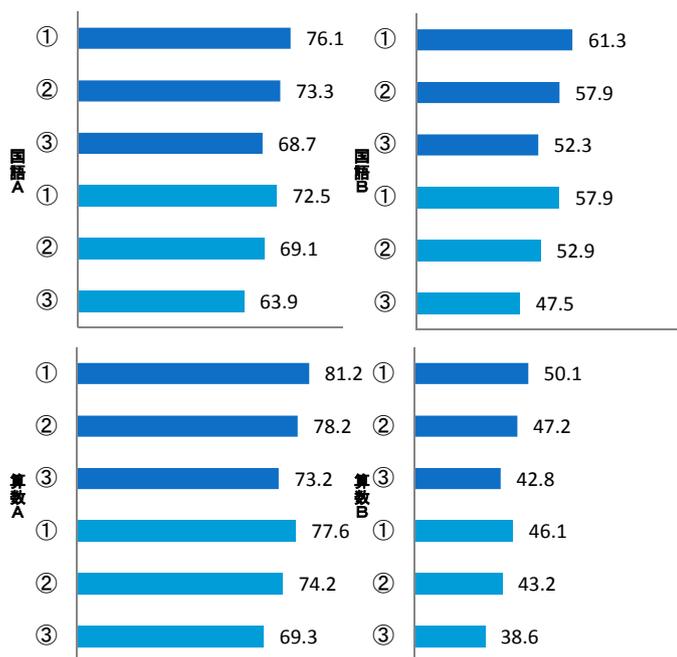
就学援助を受けている児童の在籍割合5%未満 30%以上在籍

就学援助を受けている生徒の在籍割合5%未満 30%以上在籍

調査対象学年の児童[生徒]は、熱意をもって勉強していると思いますか

① そのとおりだと思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない

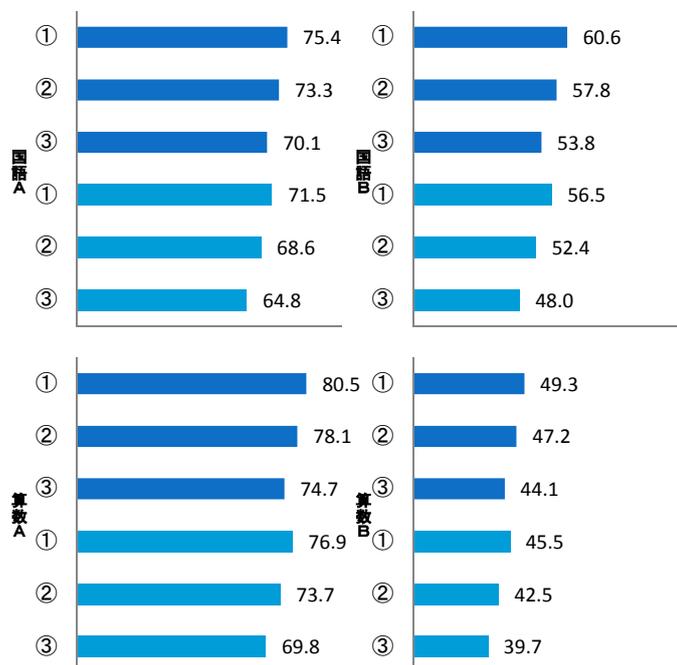
※「④ そう思わない」は、学校数が50校未満のため、分析から除外



調査対象学年の児童[生徒]は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

① そのとおりだと思う ② どちらかといえば、そう思う ③ どちらかといえば、そう思わない

※「④ そう思わない」は、学校数が50校未満のため、分析から除外



4-1. 学校質問紙の回答状況（新規項目）

教職員の資質能力向上の取組状況

【項目内容】

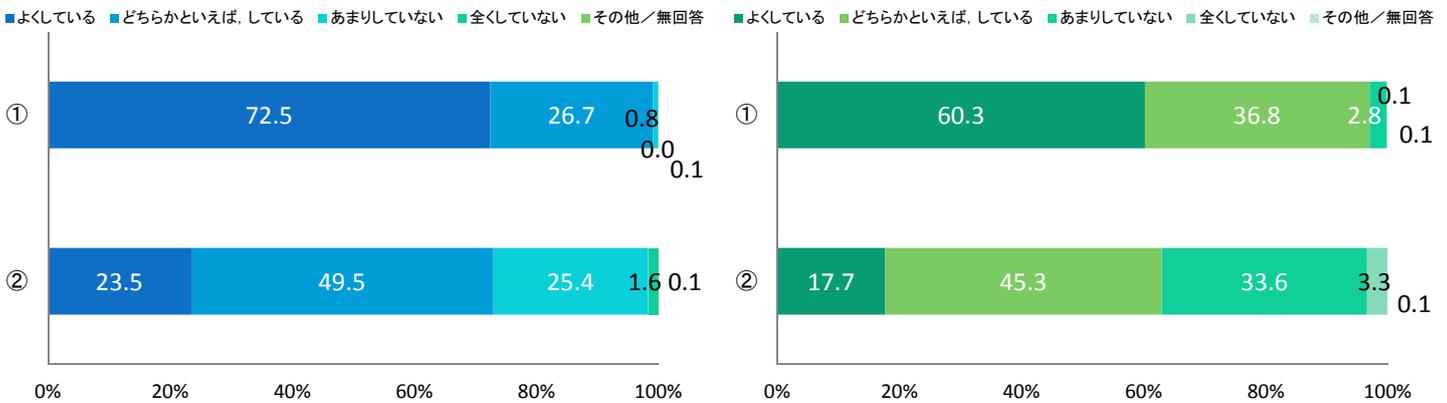
① 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか
 →「よくしている」と回答した学校は小学校7割、中学校6割を超える

② 児童[生徒]自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか
 →上記のような学習活動を学ぶ学習指導の改善に関する研修については、「あまりしていない」等と回答した学校が3割程度存在する

小学校

中学校

回答割合



カリキュラム・マネジメントの取組状況

【項目内容】

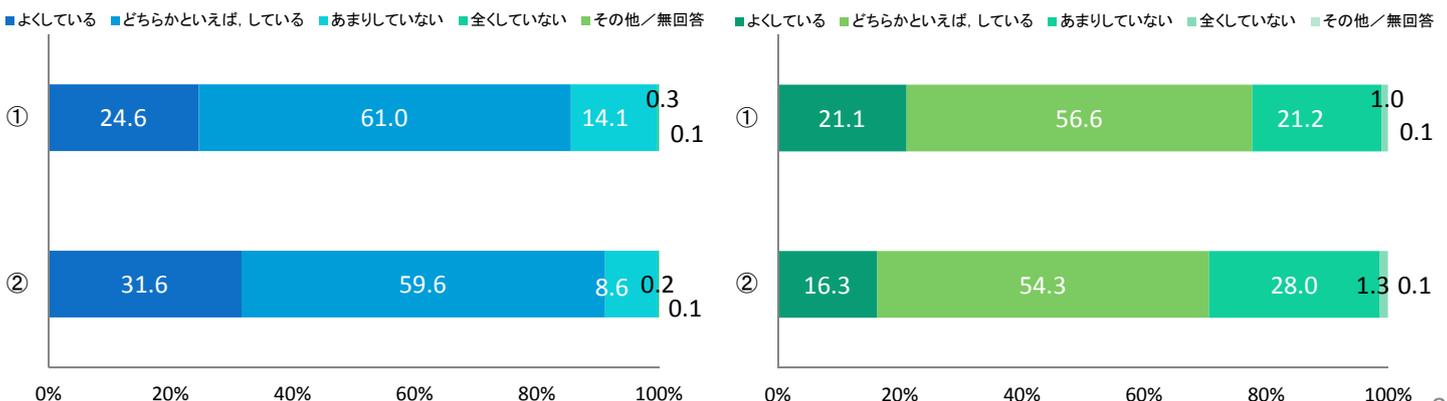
① 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか
 →「よくしている」「どちらかといえば、している」をあわせると、8割程度の学校で取り組まれている

② 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか
 →小学校と中学校を比較すると、小学校の方で、より行われていることが明らかになった

小学校

中学校

回答割合



4-2. 学校質問紙の回答状況（新規項目）

小中連携の取組状況

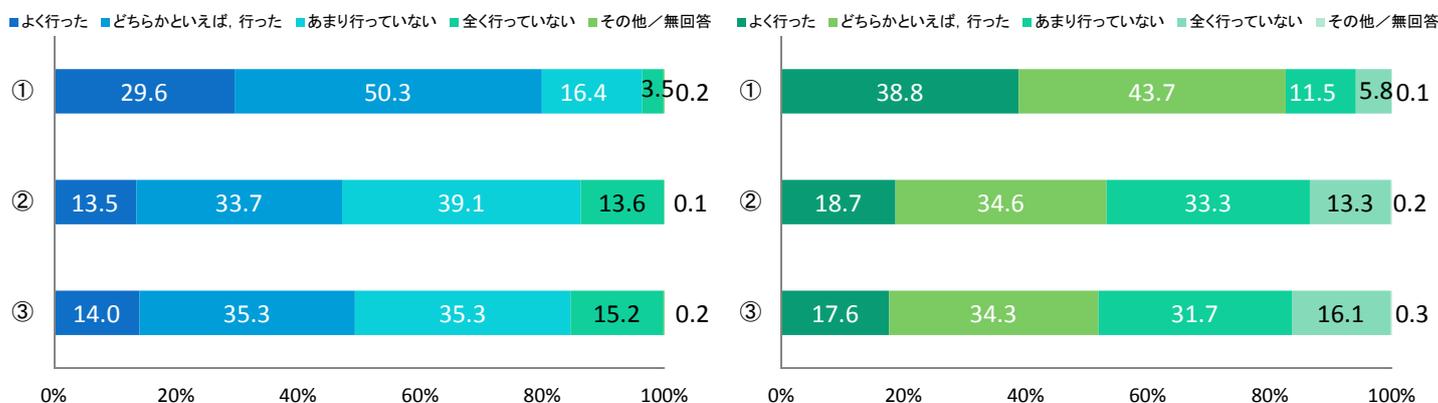
【項目内容】

- ① 前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、意見を交換し合うなど、教員同士の交流を行いましたか
→「よく行った」「どちらかといえば、行った」をあわせると8割程度の学校が取り組んでいると回答
- ② 前年度までに、近隣等の中学校[小学校]と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか
→「よく行った」「どちらかといえば、行った」の肯定的回答は5割程度に留まる
- ③ 平成27年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校[小学校]と成果や課題を共有しましたか
→「よく行った」「どちらかといえば、行った」の肯定的回答は5割程度に留まる

小学校

中学校

回答割合



学習評価の在り方

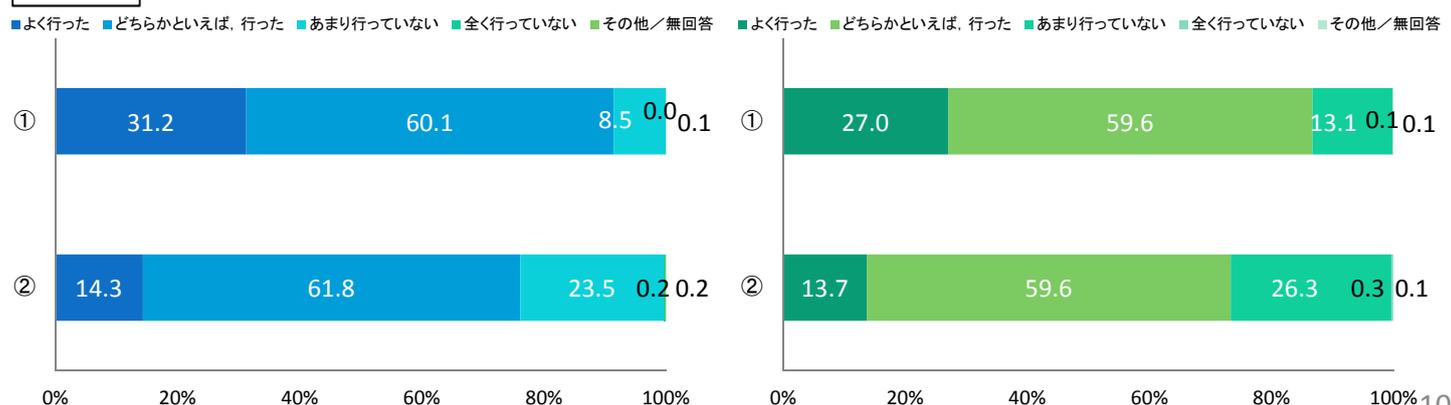
【項目内容】

- ① 前年度までに、国語や算数[数学]において、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等の多様な活動に取り組ませることにより、ペーパーテストの結果に留まらない、多面的な評価を行いましたか
→多面的な評価については、一定の定着状況にあるが、「あまり行っていない」等と回答した学校も小学校では約9%、中学校では約13%存在する
- ② 前年度までに、国語や算数[数学]において、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、児童[生徒]の資質・能力がどのように伸びているかを、児童[生徒]自身が把握できるような評価を行いましたか
→学習過程における形成的評価は、小学校、中学校とも約25%の学校が「あまり行っていない」等という回答をしており、評価方法としての定着状況に課題が見られる

小学校

中学校

回答割合

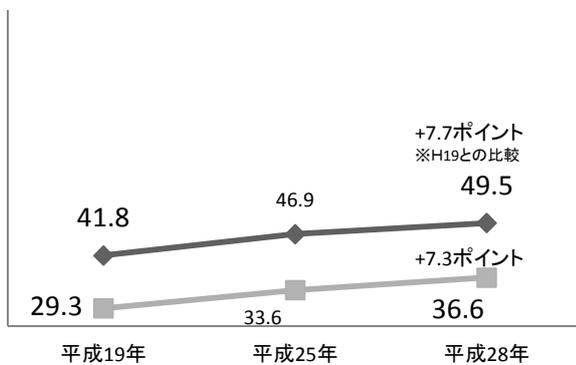


5. 10年間の回答状況の変化【児童生徒質問紙】

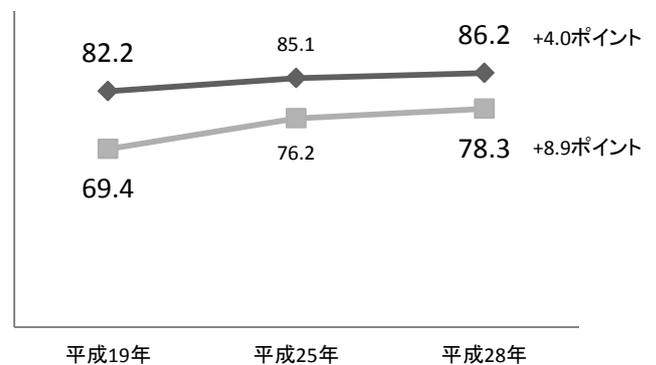
- 平成19年度の調査開始時との回答状況の変化について検証するため、平成19年時と同一の質問項目について調査を実施
- 規則的な生活習慣、学習習慣、規範意識が身につけている児童生徒の割合が増加傾向
 - 「午後10時[午後11時]より前に寝ている」について、小学校で7.7ポイント、中学校で7.3ポイント増加
 - 「家で、学校の授業の復習をしている」に対する肯定的な回答が小学校で15.0ポイント、中学校で11.7ポイント増加
 - 「家の手伝いをする」に対する肯定的な回答が小学校で4.4ポイント、中学校で3.9ポイント増加
 - 「人が困っているときに進んで助ける」に対する肯定的な回答が、小学校で8.2ポイント、中学校で11.5ポイント増加

◆ 小学校 ■ 中学校

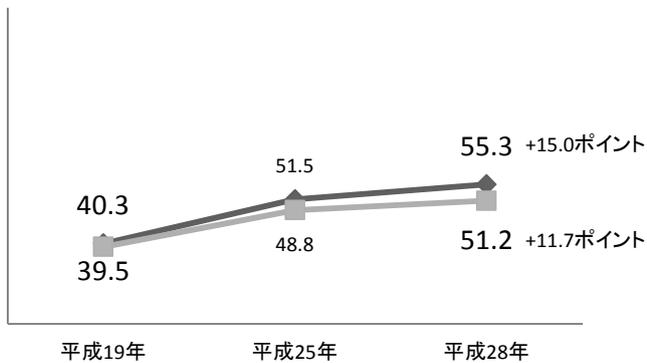
①-1 午後10時[午後11時]より前に寝ている



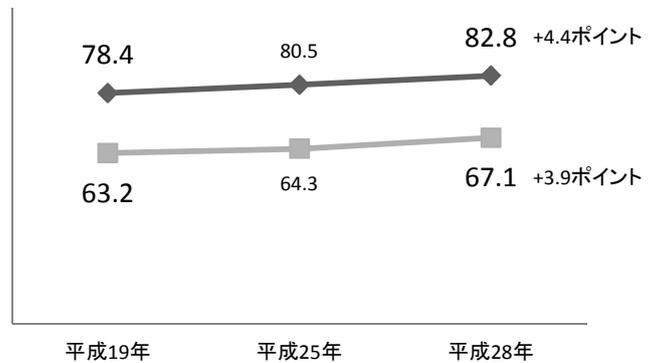
①-2 午後11時[午前0時]より前に寝ている



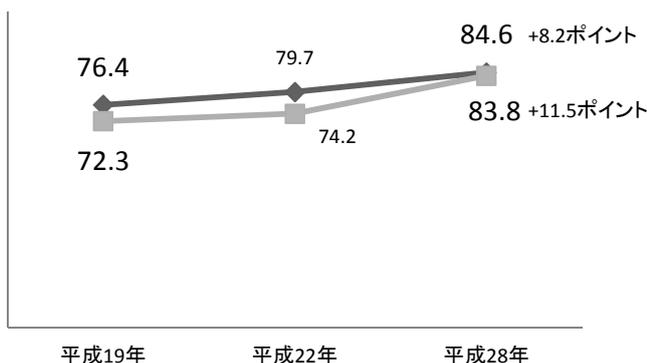
② 家で、学校の授業の復習をしていますか



③ 家の手伝いをしていますか



④ 人が困っているときは、進んで助けていますか



※肯定的な回答を選択した児童生徒の割合を集計。なお、①-1は小6は「午後10時」、中3は「午後11時」、①-2はそれぞれ「午後11時」、「午前0時」以前に寝ると回答した割合を集計。

※19年度からの経年的な変化を見るため、平成28年度以外に、平成25年度(25年度未実施の項目については、22年度)の数値も掲載。

6. 都道府県の状況（公立）

- ・平均正答数の上位県と下位県の平均を全国平均との差で見た場合、小学校では1問、中学校では1問～2問の範囲内であり、都道府県単位では、学力面において、ほとんど差が見られない
- ・国語、算数・数学については、引き続き、下位県の成績が全国平均に近づく状況が見られ、学力の底上げが図られている

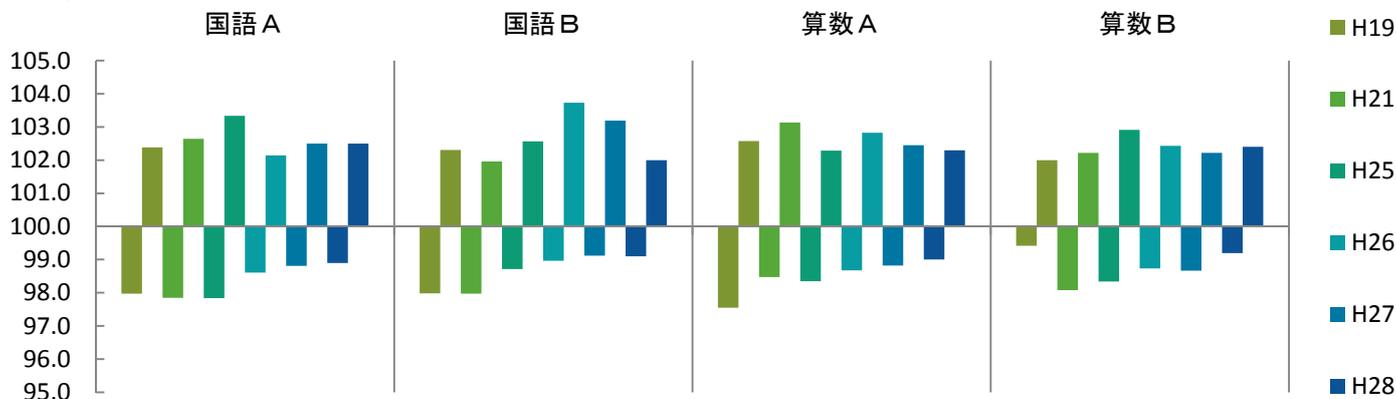
高い3都道府県と低い3都道府県の状況（本年度の平均正答数）

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
◇全国平均（公立） ・平均正答数／出題数	10.9 ／15問	5.8 ／10問	12.4 ／16問	6.1 ／13問	25.0 ／33問	6.0 ／9問	22.4 ／36問	6.6 ／15問
◇高い3都道府県の平均 ・全国平均との差	+0.8問	+0.5問	+0.8問	+0.7問	+0.8問	+0.4問	+1.8問	+0.8問
◇低い3都道府県の平均 ・全国平均との差	-0.3問	-0.2問	-0.3問	-0.2問	-1.0問	-0.3問	-1.9問	-0.7問

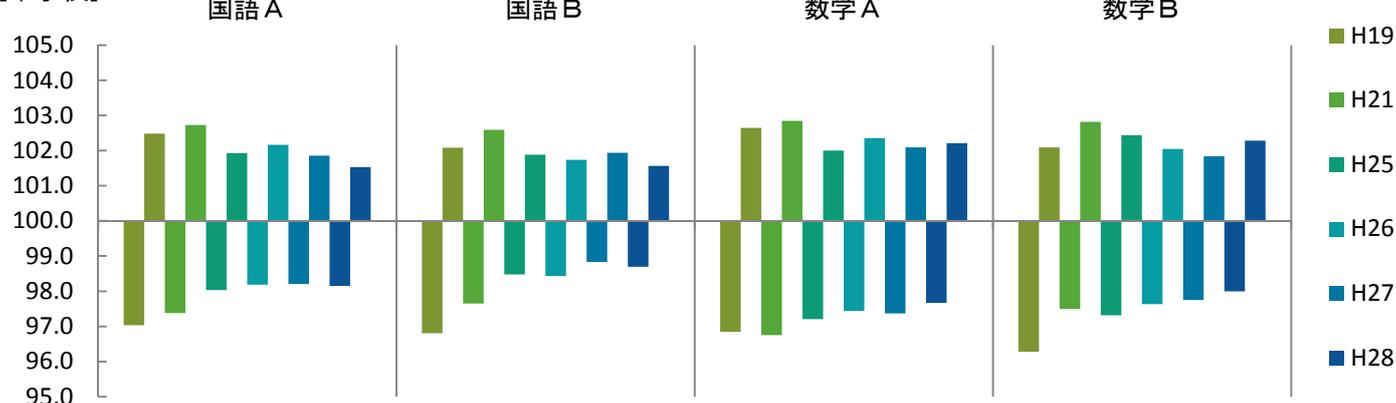
標準化得点の推移

平成19・21・25・26・27・28年度で、平均正答数（公立）が高い3都道府県と低い3都道府県の標準化得点の平均を算出※標準化得点と同値の場合は、それらの都道府県全ての標準化得点の平均を算出

【小学校】



【中学校】



※標準化得点・・・各年度の調査は問題が異なることから、平均正答率による単純な比較ができないため、年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう、各年度の調査の全国（公立）の平均正答数がそれぞれ100となるように標準化した得点

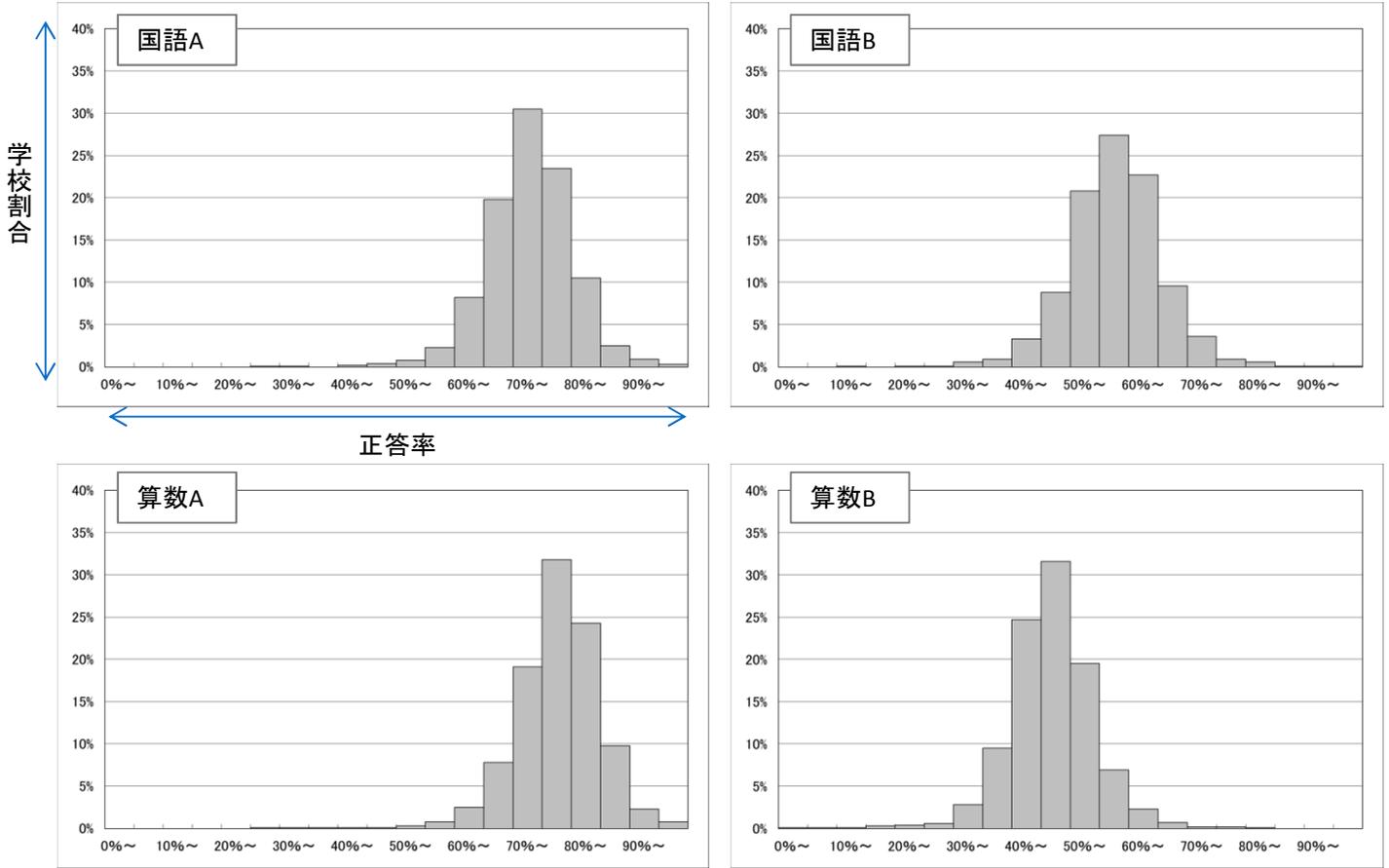
(参考) 都道府県別の平均正答数・正答率 (公立)

- ・学力面において、細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、平均正答数については小数点第1位、正答率については小数点以下を四捨五入した結果を示す
- ・表中の下線は、全国の平均正答率と同程度の都道府県を表す

	小学校								中学校							
	国語A (15問)		国語B (10問)		算数A (16問)		算数B (13問)		国語A (33問)		国語B (9問)		数学A (36問)		数学B (15問)	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率								
全国(公立)	10.9	<u>73</u>	5.8	<u>58</u>	12.4	<u>78</u>	6.1	<u>47</u>	25.0	<u>76</u>	6.0	<u>67</u>	22.4	<u>62</u>	6.6	<u>44</u>
北海道	10.7	71	5.6	56	12.0	75	5.8	45	24.8	75	5.8	65	22.2	<u>62</u>	6.5	43
青森県	11.6	77	6.0	60	12.9	80	6.2	48	25.2	<u>76</u>	5.9	66	23.0	64	6.7	45
岩手県	11.0	<u>73</u>	6.0	60	12.5	<u>78</u>	6.1	47	25.1	<u>76</u>	5.9	66	20.8	58	6.1	41
宮城県	10.8	72	5.6	56	12.2	77	5.9	46	25.4	77	6.1	68	21.8	60	6.6	<u>44</u>
秋田県	11.6	77	6.4	64	13.1	82	6.7	52	26.1	79	6.5	72	24.0	67	7.3	48
山形県	10.9	72	5.8	<u>58</u>	12.2	76	6.0	46	25.4	77	6.1	<u>67</u>	21.9	61	6.5	43
福島県	11.0	<u>73</u>	5.7	57	12.3	77	6.0	46	24.9	<u>76</u>	5.9	65	21.2	59	6.2	41
茨城県	11.0	74	5.9	59	12.5	<u>78</u>	6.2	48	25.4	77	6.2	69	22.0	61	6.7	45
栃木県	10.6	71	5.6	56	12.0	75	5.9	45	25.0	<u>76</u>	6.0	<u>67</u>	22.0	61	6.5	43
群馬県	10.7	72	5.6	57	12.5	<u>78</u>	6.0	46	25.5	77	6.2	69	22.7	63	6.8	46
埼玉県	10.7	72	5.7	57	12.1	76	6.0	46	24.7	75	5.9	66	21.7	60	6.5	43
千葉県	10.9	<u>73</u>	5.8	<u>58</u>	12.2	77	6.1	<u>47</u>	25.1	<u>76</u>	6.0	<u>67</u>	21.7	60	6.4	43
東京都	11.1	74	6.0	60	12.7	79	6.5	50	25.4	77	6.2	69	22.8	64	6.8	46
神奈川県	10.6	70	5.8	<u>58</u>	12.2	77	6.1	<u>47</u>	24.9	75	6.0	<u>67</u>	22.3	<u>62</u>	6.6	<u>44</u>
新潟県	11.4	76	6.0	60	12.7	80	6.2	48	25.2	77	6.0	<u>67</u>	22.4	<u>62</u>	6.6	<u>44</u>
富山県	11.3	75	6.1	61	12.9	81	6.7	51	25.7	78	6.3	71	23.5	65	7.4	49
石川県	11.8	79	6.3	63	13.2	82	7.0	54	25.8	78	6.4	71	23.6	66	7.3	49
福井県	11.5	77	6.3	63	13.2	82	6.7	52	25.7	78	6.3	70	25.0	69	7.6	51
山梨県	10.7	71	5.8	<u>58</u>	12.4	77	6.1	<u>47</u>	24.8	75	6.1	68	22.0	61	6.6	<u>44</u>
長野県	11.1	74	5.9	59	12.4	77	6.1	<u>47</u>	25.2	<u>76</u>	6.0	66	22.1	61	6.6	<u>44</u>
岐阜県	11.0	<u>73</u>	5.9	59	12.4	77	6.1	<u>47</u>	25.0	<u>76</u>	6.2	69	22.8	64	6.9	46
静岡県	11.5	77	5.9	59	12.6	79	6.2	<u>47</u>	25.4	77	6.3	70	23.2	64	7.0	47
愛知県	10.7	71	5.6	56	12.2	76	6.0	46	24.9	<u>76</u>	6.0	66	23.4	65	7.0	47
三重県	10.8	72	5.8	<u>58</u>	12.5	<u>78</u>	6.1	<u>47</u>	24.5	74	5.8	64	22.4	<u>62</u>	6.5	43
滋賀県	10.9	<u>73</u>	5.6	57	12.1	76	6.0	46	24.4	74	5.7	63	22.1	61	6.3	42
京都府	11.1	74	5.9	59	12.8	80	6.3	49	25.0	<u>76</u>	6.0	<u>67</u>	22.8	63	6.8	45
大阪府	10.7	71	5.5	55	12.3	77	6.0	46	24.3	74	5.7	63	22.2	<u>62</u>	6.5	43
兵庫県	10.9	<u>73</u>	5.8	<u>58</u>	12.4	<u>78</u>	6.2	<u>47</u>	25.1	<u>76</u>	5.9	66	23.7	66	6.8	46
奈良県	10.8	72	5.7	57	12.3	<u>77</u>	6.0	46	25.0	<u>76</u>	5.9	66	22.9	64	6.6	<u>44</u>
和歌山県	10.5	70	5.6	56	12.4	77	5.9	46	24.2	74	5.7	63	22.4	<u>62</u>	6.4	43
鳥取県	11.3	75	5.8	<u>58</u>	12.3	77	6.1	<u>47</u>	25.3	77	6.0	<u>67</u>	22.8	63	6.7	<u>44</u>
島根県	11.2	75	5.7	57	12.3	77	6.0	46	25.2	<u>76</u>	6.1	68	21.4	60	6.3	42
岡山県	10.9	<u>73</u>	5.8	<u>58</u>	12.4	77	6.1	<u>47</u>	24.6	75	5.7	64	21.7	60	6.2	41
広島県	11.8	78	6.1	61	12.7	80	6.4	50	25.3	77	6.1	68	22.4	<u>62</u>	6.7	45
山口県	11.2	75	5.9	59	12.5	<u>78</u>	6.3	48	25.4	77	6.1	68	22.9	64	6.8	45
徳島県	11.4	76	5.7	57	12.3	77	5.9	45	25.0	<u>76</u>	5.8	64	23.3	65	6.6	<u>44</u>
香川県	11.2	75	5.9	60	12.5	<u>78</u>	6.1	<u>47</u>	25.5	77	6.1	68	23.0	64	6.7	45
愛媛県	11.0	74	6.1	61	12.9	81	6.4	49	25.2	77	6.2	69	23.0	64	7.0	47
高知県	11.6	77	5.8	<u>58</u>	12.9	80	6.2	<u>47</u>	24.9	75	5.9	65	21.1	59	6.0	40
福岡県	10.8	72	5.8	<u>58</u>	12.4	<u>78</u>	6.1	<u>47</u>	24.7	75	5.9	66	21.7	60	6.4	42
佐賀県	10.9	<u>73</u>	5.7	57	12.4	<u>78</u>	6.0	46	24.6	75	5.8	65	21.4	59	6.2	41
長崎県	10.9	72	5.7	57	12.5	<u>78</u>	6.1	<u>47</u>	24.9	75	6.0	<u>67</u>	22.1	<u>62</u>	6.4	43
熊本県	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大分県	10.9	<u>73</u>	5.8	<u>58</u>	12.5	<u>78</u>	6.1	<u>47</u>	24.7	75	6.0	66	21.9	61	6.3	42
宮崎県	11.2	75	5.6	56	12.3	77	5.9	46	24.6	75	5.8	65	22.2	<u>62</u>	6.4	43
鹿児島県	10.8	72	5.7	57	12.6	79	5.9	45	24.4	74	5.8	64	21.5	60	6.2	41
沖縄県	11.0	<u>73</u>	5.8	<u>58</u>	12.9	81	6.2	48	23.5	71	5.7	63	19.5	54	5.6	37

7. 学校の状況（公立）

小学校



中学校

